

町医者だより

平成25年10月号

新たな喘息治療：気管支熱形成術

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

ヤソビル本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

1分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

ここ4-5年の間に気管支熱形成術なる喘息の新しい治療法の報告を目にするようになりました。英語ではbronchial thermoplastyで頭文字をとってBTと呼ばれています。今月はどのような治療か概略を説明いたします。

重症喘息患者さんが当面の対象

喘息は慢性的な気管および気管支の炎症です。このことは私も実際の診察の場でもしばしば説明していることです。症状の有無にかかわらず気道の炎症が続き、気道の「リモデリング」が起きてきます。これは気管支平滑筋増生による平滑筋層の肥厚、気管支粘液線の増加などを伴い、気道が狭くなりやすくかつ戻りにくい状態になります。リモデリングが進むと治療に抵抗性を示すようになり難治化します。そのために吸入の継続を口うるさく勧めているわけですがその目的は1秒量の低下による低肺機能による慢性呼吸不全への進展阻止（酸素を吸わなくてはならなくなります）と同時にこの「リモデリング」の出現阻止を目指しています。リモデリン、特に気管支平滑筋の肥厚をターゲットした新しい治療が気管支熱形成術です。具体的には3ミリ以上の気管支を対象に気管支内視鏡検査を行いながら専用の電極を挿入し、気管支壁に65℃までの熱した電極を何回か押し付けるといくきわめて簡便な方法です。アメリカのボストン・サイエンティフィックという会社がAlair™ Systemという機器をすでに販売していてこの機器を使用して行うようです。気管支に一種のやけどを起こして肥厚した平滑筋を減少させます。平滑筋層は通常のやけどと同じような傷の修復過程を経て繊維組織に置き換わります。こうして気管支が狭くなりやすい状況を改善するというものです。

効果の程は

2004年にカナダのCoxが欧州呼吸器学会誌に投稿して知られるようになりました。本年、その長期的経過についての報告がなされました（Annals of Allergy, Asthma & Immunology）。まだ安全性の評価の段階ですが5年間の観察で、喘息悪化による入院回数や救急外来受診回数など低い数値にとどまっており、呼吸機能の悪化も見られませんでした。既存の治療の継続はもちろん必要ですが、治療の選択肢が増えることは良いことです。2010年にアメリカで治療として承認されていますが、近い将来日本でも認可される可能性があります。